



足立区議会議員

似内

和

にたないひとしさん 「見直される足立区」実現に向け

注目の区議会議員 特集

片山さつき参議院議員、鴨下一郎元環境大臣の秘書を経て、足立区議会議員として活躍するにたないひとしさん。新人一期目ながら政務調査会の副会長を2回も務め、15年間進んでいなかった避難行動要支援者への支援や学べる居場所対策、若年者への就学支援、全く動かなかった地元小学校跡地の活用など様々な成果を残しています。特に新型コロナウイルスに関しては区内での流行前に議会で最初に取り上げた議員でもあり、その後も、現在では当たり前となった個別接種など接種体制や予約体制の是正や屋外運動場の使用禁止といった「行き過ぎた感染対策」の是正など、新人とは思えない一歩先で活躍をする足立区議会自民党の新星、にたないひとしさんを特集します。

深堀り徹底 インタビュー

Q：なぜ、政治の道を志したんですか？

A：大変烏滸がましいかぎりですが、政治家が嫌いで、選挙が仕事のサービスマンにこれ以上政治を任せておけない、傍観者でいられないと考えこの道に進みました。

Q：志すきっかけについて教えてください。

A：学生時代です。学ぶことが好きで全く苦ではなかったのですが、様々な事情があり、学費を工面しながら学んでいました。ある時スーパーで89円の食パンとカップラーメンで悩んで、食パンにすれば3食分にはなる、だけど温かいカップラーメンも食べたい。と考えていた時、ふと、学ぶことの障害の多さに、他の学生とのハンデの大きさに、日本の就学環境の問題点に疑問を持ったことがきっかけです。

Q：なぜ自民党に？

A：財力やコネ、何も力のない私にとって、対立軸を作り出すことは現実的ではないと判断しました。パフォーマンスではなく本気で変えたいなら、影響力のある既存の組織を変えることが唯一の方法だと考え、党の中でも一番厳しい片山さつき先生の門戸を叩きました。

Q：足立区をどのようにしていきたいですか？

A：バカにされネタにされる足立区ですが、私にとっては生まれ故郷です。面白おかしく取り上げられるたびに悔しい思いになります。「見直される足立区」にしていきたいです。

Q：どうしたら見直されると思いますか？

A：治安・学力・貧困の連鎖・収入など問題の解決だけではなく、秀でる必要があると考えています。

Q：どういったことを取り組んでいますか？

A：区の課題は多岐にわたるので、例えば、教育面だけに絞って取り上げてみると、私は人生最初の登壇で「就学支援」「自己選別」「価値観の固定化」これらの改善こそが足立区の勝ち筋だと訴えさせていただきました。当選当時は就業支援だけでしたが、様々な提案をさせていただき、未だ不十分ですが、現在若年層への新たな就学支援や、給付型奨学金による自己選別へのアプローチ、経験提供の拡充による価値観へのアプローチなどをより効果の高いものとなるよう改善提案を繰り返しています。

しかしながら、これだけでは足りておらず「見直される足立区」にするには更に踏み込み、秀でることが必要だと考えています。

Q：更に踏み込むとは、具体的には？

A：例えば、現在「TUMOセンターを参考にした教育施策」を提案しています。

Q：それはどういった教育施策ですか？

A：TUMOセンターとはアルメニアの教育施策のひとつです。アルメニアは貧困削減への国家戦略として教育制度改革に注力し、貧困・所得格差の縮小を遂げました。その中で生まれた教育施策で、12-18歳の子ども達がほぼ無料で放課後に、AI、3D、機械学習、映像、ロボティクスなど先端技術を学べる環境を提供しています。

特に参考とすべき点に「やりたいから学ぶ」主体的な学習環境の提供という点があります。やりたい・興味を持っていること学ぶ事が内発的動機付けに繋がり、エリクソンが言うところの自我同一性の発達期においても 大きな影響を及ぼすと考えており、足立区だからこそ参考とすべき事例だと提案しています。

Q：足立区に作るということですか？

A：多くの区の施設があるわけですから、既存の施設を活用しながら、重要な要素を取り入れ小さく始める事を提案しています。そのテストケースとして、学べる居場所対策、学校外での教育施策を要望し、効果への根拠を集めているところです。これは学生に限らず、生涯学習として「新たな学び」は高齢者への健康寿命増進や現役世代にも提供できれば、技能向上に繋がり、区内企業の強化、収入増にもつながる可能性を秘めていると考えています。

Q：既存の施設という？

A：例えば、住区センターがありますよね。現在利用されているのは高齢者と一部の子育て世代がほとんどで、長年内容もあまり変わってません。「学生が学校外で活動しやすい時間」「高齢者・未就学児が活動しやすい時間」「社会人の休日」それぞれがズレていることも着目し、少しずつ要素を導入していく事も有効だと考えています。

Q：実現できそうですか？

A：現在走らせているテストケースとは別路線でも、情報格差対策、情報通信の恩恵を受けることが出来る人と出来ない人の差を縮める対策として、国や都の支援を受けながら、小さく始めることでも実現性を高められます。その先に「見直される足立区」があると考えています。

Q：教育以外の分野については？

A：他にもお伝えしたいことは山程ありますが、基本的な考えとして「足立区が見直されるには、足立区が抱える問題の解決だけでは不十分であり、他より秀でる必要があります。」そのためには、挑戦的施策が必要であり、無謬性が強い現在の区組織と相反する組織の性質に変えていかねばならないと考えています。

Q：それはどういったことですか？

A：失敗が許されず挑戦的な取り組みがしにくい体質があります。こちらから様々な提案をしても、他の自治体の事例を調査し、前例がなければ及び腰になる。そのような組織では秀でる分野を作ることは出来ません。自らの提案だけではなく、若手職員や新たな挑戦的な事業については全力で後押しを行うことも重要だと考えています。

また、失敗が表面化することを恐れて、億単位の事業でも効果の評価指標を設定しないなど、民間では信じられな

LIBERAL&DEMOCRATIC 自由民主

発行所

自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
定価 1部 108円(税込み)
自由民主党ホームページ

<http://www.jimin.jp/>



<毎週火曜日発行>

にたないひとしさんは、足立区政に臨む決意を力強く語っています。

い取り組み方を未だにしており、効果のないところに大切な税金を長年垂れ流していることについて、見て見ぬ振りをしてはいけません。各方面お叱りをいただきながらも止めるべき事業について厳しく追求しています。

一般財源1,757億円の中で、経常収支比率77%、つまり区の裁量で配分できる予算が404億円もあり、大切なことは選択と集中、効果の追求と測定の徹底。この予算の最大効率を追求すれば、いま足立区が抱えている課題の解決が出来ないとは到底考えられません。そして、次々と挑戦的な事業を行うことを促し、更に秀でる分野を作ることも可能だと考えます。

体質を変えることは非常に難しいことですが、変えられるとすれば議会であり、優秀な職員も多く、不可能ではないと信じてやみません。「見直される足立区」実現に向け、初心を常に、選挙が仕事のサービスマンに降らず、捨て身で故郷に恩返しをしていきたいと考えています。

プロフィール

足立区議会自由民主党 政務調査会 副会長
自由民主党足立総支部連合会 事務局次長

にたないひとし (似内和)

昭和60年4月12日 足立区生まれ 37歳

防災士・防災危機管理者・消防団員(令和5年消防団長賞 受賞)
加平小・青井中・荒川商業 総合ビジネス科 卒業
高校卒業後、IT技術者として働き4年間学費を貯め復学
東京都立産業技術大学院大学 修士課程 修了

片山さつき政治経済研究所 研究員、
参議院議員 片山さつき秘書、衆議院議員 鴨下一郎秘書を経て
令和元年 足立区議会議員 初当選 現在1期目
ホームページ: nitanai.com メール: mail@nitanai.com